

初めて行きました 吉野ヶ里遺跡

アトム福大前 2020年11月01日 第56号

VIEW通信

●秋晴れの吉野ヶ里遺跡を歩いて
少々ばて気味の左カナ、右ユキ



●那珂川市から山越えて吉野ヶ里遺跡に行きました!・・・そろそろ秋の味覚を求めて、昨年に引き続き「うきはの道の駅」に両親連れて柿など買い物に出かけました。ついでに我々は、近くに住んでいてもまだ一度も訪れたことのない「吉野ヶ里遺跡」にも寄ってみたかったので那珂川市から山越えて行くことにしました。

父は「吉野ヶ里遺跡」に興味があり前から行ってみたかったそうで、前もって時代背景を調べてきていました。我々夫婦は韓流・華流とドラマを見ていたので朝鮮や中国の歴史に詳しくなりましたが、日本は学校で習ったことも忘れていてよくわかりません。父が「弥生時代だから紀元前3世紀から紀元3世紀ぐらいの間だね」と教えてくれたら、家内はすかさず「では中国では秦から漢の時代で朝鮮ではチュモンの頃だ!」。すごい! 即答でした。

秋晴れの吉野ヶ里遺跡はとても広大で手入れが整っています。我々4人家族は家内を除いて高齢者なので何でも半額とか、無料になり、入場料も駐車場も格安!超お得感でした。犬たちは人出はあるけど広大なため人やワンコと遭遇も少なく、自由に伸縮リードで走り回り大喜び。両親も歴史の勉強と日の光を浴びて歩くことで運動にもなって楽しかったそうです。おかげで昨年好評だった「富松ウナギ」が美味しく大変喜んでくれました! 昼食後は「うきはの道の駅」でお買い物。でもここまでゆっくりしすぎてほとんど売り切れ状態。なんとか富有柿と野菜を買って帰ることができました。

■吉野ヶ里遺跡の入口です ■弥生時代へ入って行きました ■木製のししに犬たち大騒ぎ! ■両親は歴史館に入館 ■弥生の人? ■これが弥生式土器



■弥生式 竪穴住居がたくさん ■雑誌「犬吉猫吉」の撮影会です ■お店の周りはウナギの煙! ■今年のかば焼きは並みです ■うきは道の駅に到着



●長年の不安材料だった我が家のウッドデッキが新しくなりました!・・・我が家は、3年前に築12年の中古住宅を買ったのですが、その時から東側にあるウッドデッキがかなり老朽化していたのです。ウッドデッキはその半分くらい裏の池の方にせり出していて、景観はとても良いのですが、下を見ると池のほとりまで5mの高さがあり、家内とふたりは一緒に端には載らないようにしていましたが、お客さんが来られた時によく外でバーベキューをやるので不安でした。でもかなり特殊な工事だと思うので、お願いするにもノウハウのある業者さんが必要です。そこで私の40年来のお客さんでもある工藤建設さんに相談しました。工藤さんご自宅が那珂川市西畑にあり、高台に高い擁壁を築いてご自分で建設されています。そしてその高台から周りが見渡せるウッドデッキを設計施工されているのです。そのデッキが素晴らしかったので、半年前からぜひお願いしたいと頼んでたところ、やっと今回工事に入ってもらったのです。

我が家のウッドデッキが「セラガンバツ」と言うマレーシアやインドネシアで作られているハードウッドで、重く硬いので、長寿命だと聞いていたのですが、その板を止めているハリや大引きは普通の材料で、その部分が腐食してきて危険な状態でした。今回解体して初めて本当に怖かったことがわかり、無事でもよかったと安心できたのです。今回の材料はヒノキ材です。表面もきれいで香りもよく、防腐剤の入った塗料を何度も重ね塗りし、肝心のハリや大引きは上部にガルバリウムと言う外部用の腐食しにくい金属板を全部に入れていただきました。工期は2週間かかりましたが、材料の太さも以前とは違うし、丁寧な組み立て工事と工藤社長自ら塗装をしていただきました。以前より東側南側とも数メートルずつ延長し、犬たちが十分走り回れるようになりましたが、今までより犬たちのうんちを拾いに行く距離が増えて少々大変になりました。ウッドデッキのピフォーアフターをご覧ください!

■ウッドデッキのピフォーです。■解体してびっくり、ここまで腐食してた!真下の池のほとりまで5m、無事でもよかった! ■工藤社長と工事主任啓一君、そして明さん



■一番の難所、池にせり出した部分です。ガルバリウム鋼板でカバー ■完成です!犬たちも走れるし、縄跳びしても大丈夫!工藤建設さんに感謝です!



●きっと手間ばかりかかる大変な工事だったと思いますが、一生懸命丁寧に工事していただきました。一つだけ気になることがあります、、、。工事初日にうちのカナが、工藤社長を悪者だと思い、一目散に向かって行って噛みついてしまったのです。大変申し訳なく思っています。ごめんなさい! 清田良平・カナ